

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス なないろテラス 支援プログラム（参考様式） 作成日 2024年 7月 16日

法人（事業所）理念	法人：「兼愛」「自浄」「共生」在宅医療を推進し、地域医療を軸に地域の皆様の笑顔を目指す。患者様に正しい治療、正しい選択肢を提供するようこころがける。医療従事者として自覚を持ち、それにふさわしい行動を常に行う。 事業所：「みんな」で「みらい」につながる「えがお」をつくりたい なかま えがお みらいこの3つの言葉を掲げ、「自他善導」の精神で障害者福祉に貢献する					
支援方針	利用される方々とその家族の365日 24時間を考えた支援 持続可能で質の高いサービスの実現 適切な支援の提供と支援の質の向上 業種間の垣根を超えたチーム作り					
営業時間	9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり
支援内容						
本人支援	健康・生活	食育活動を通して様々な形態や味の食べ物を食べる経験を積み、食事の楽しさや摂食嚥下訓練を楽しく実施（おやつ提供）する。全身の清潔と全身状態の観察を行い、爽快感を得る入浴援助 衣服の着脱の練習と行為による爽快感を得る。 看護師による日常の健康状態のチェック その他日常生活の援助 排便コントロールを実施し、排便習慣を身に着ける。 様々な医療的デバイスに対応し日常的に医療的ケアを必要とする児の健康を維持する。 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。				
	運動・感覚	PT・柔道整復師による計画的なりハビリ（全身の筋トレ、関節可動域訓練）の実施により側弯の予防や現状の持続。 呼吸リハを実施することにより、胸部の可動域の拡大と維持、呼吸状態の改善により、体調管理を行う。 マッサージや体操により固有感覚・皮膚感覚への刺激を促し身体図式を明確にする。繰り返し動作の実施により慣れと学びを促す。 入浴時、泡を触ったり自分で体を洗う・自分で洗髪をする動作を促し、固有感覚・皮膚感覚に刺激を与える。 食育活動により口腔内の感覚受容体を刺激したり、味覚・臭覚に快の刺激を与えることにより、成功体験を積み。 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。				
	認知・行動	製作活動により、手先指先を使用することにより物を介した感覚を認知し、時間をかけて1つの作品を作り上げる喜びや達成感を味わう。 一年を通して季節に合った行事を体験することにより季節の流れや時間の流れを感じる。 食育活動を通して、食べ物が口に入る喜びと美味しさを体験し、繰り返すことで感覚を養い、自発的行動を芽生えさせる。 ポジショニングを行い上肢を使った活動を促すことにより、能動的行動を芽生えさせ、成功体験を積み。 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。				
	言語コミュニケーション	他者からの声に耳を傾け、視覚で認知する行為を自ら発信し行うことにより、他者から反応が得られる喜びを積み。 または、自己を表現する手段として上肢や表情を変化させることを楽しむ。自己表現が他者に伝わる喜びを知り意思疎通を体験する。 非言語的コミュニケーションにより他者に自己の意志を伝える練習をし、伝わった時の喜びを味わう。 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。				
	人間関係社会性	事業所スタッフと関り人間関係を構築する。事業所スタッフと継続的に関ることにより、信頼関係を継続し安心感を得る。 他の利用者との関りを通し、同世代以外の年齢の利用との関りの中で、他者の存在を知る機会を得る。 集団活動を通して協力して一つのことを成し遂げる感覚を得る。集団活動の中で他者と同じ体験を共有し一体感を得る。 地域行事への参加、社会へ参加し活動の幅を広げる。 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。				
家族支援	日常生活において、社会資源が足りているか、確認し必要であればアドバイスを 行う。兄弟、姉妹の関りやケアについて必要な情報を与える。 他の兄弟・姉妹と関わる機会を増やすための交流会を実施する。 年に2回保護者会を実施し、ご家族の生活状況やお困りごとを聴取する機会を作る。			移行支援	ライフステージの切り替え意を見据えた、地域の生活の場や育ちの場との 交流と情報交換。 地域と繋がりがりながら日常生活を送るため、地域住民の方との交流。	
地域支援・地域連携	他の通所支援事業所との交流と情報交換 地域連携会議への参加			職員の質の向上	職員の各種勉強会や研修への参加 児発管等資格取得の支援あり	
主な行事等	季節の行事 近隣施設・公園へのお出かけ 食育プログラム					